

額田 宣彦 Nobuhiko Nukata

“parallel”

2017年6月24日(土)～7月23日(日)

レセプション：6月24日(土) 18:00 - 20:00

火曜日～土曜日 11:00 - 19:00 日曜日 12:00 - 17:00

(月、祝日 休廊)

ハギワラプロジェクト

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-18-2-101

T / F: 03 6300 5881 E: info@hagiwaraprojects.com

www.hagiwaraprojects.com

京王新線・都営新宿線「初台」駅東口より徒歩5分／

JR「新宿」駅南口より徒歩15分／都営大江戸線「都庁前」駅より徒歩12分



“赤い壁” 2015-6
白亜、アクリル、油彩、麻布
100 x 100 cm

この度ハギワラプロジェクトでは、6月24日(土)より、額田宣彦の個展“parallel”を開催する運びとなりました。当画廊では初の個展となります。

額田は1963年生まれ、1990年代より数多くの美術館やギャラリーの展覧会に参加し、作品を発表し続けています。1990年代半ばより、ジャングルジムのような格子を描くスタイルを形成し、現在は白い下地が均一に塗られた麻布に、単色の油絵具で麻布の目に沿って絵の具を塗っていくという究極にシステムティックな方法に辿り着きました。「作品(絵画)」と「イメージ」の関係を「パラレルなもの」として捉え、絵画において、表層的な表現や作家の恣意性を出来る限り取り除いた上で、人間の奥底にある普遍的な感性と知覚に届く絵画が作れるか。幾何学的な模様のように見えたり、ふと意識を変えると画面の中に空間が生まれてきたり、また全く別のものを想起させたりと、額田の絵画はその自律性ゆえ、単色の線から広がる鑑賞者と絵画との豊かな対話を促します。今回の展覧会では、1点1点違う自律性を持った作品が同じ空間に並ぶことによって、観者が“パラレル”な差異性を深く感じられる展示となっています。

また、現在NADiff Gallery(東京、恵比寿)にて展覧会「GROUND α collaborative drawings—ぼくの土地にみんなで家を建てた」も開催中です。GROUNDは額田ら5名の画家で結成され、2014年より〈絵画の可能性〉を示すことを共通の目的意識として活動を行っています。こちらも合わせてご高覧頂けたら幸いです。(2017.07.02[日]まで)

GROUND α collaborative drawings — ぼくの土地にみんなで家を建てた

参加作家：小林孝亘、額田宣彦、丸山直文、高橋信行、猪狩雅則

2017.06.02[金]—2017.07.02[日] 月曜日定休 ※月曜が祝日の場合は翌日

NADiff a/p/a/r/t

150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-18-4 NADiff A/P/A/R/T B1F TEL. 03-3446-4977

作家略歴：

額田 宣彦 ぬかた のぶひこ

1963年大阪府生まれ、愛知県在住。1990年愛知県立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。主な展覧会に、「GROUND2」武蔵野美術大学美術館(東京、2016)、「GROUND」愛知県立芸術大学サテライトギャラリー(愛知、2014)、「MOTコレクション特別企画 クロニクル 1995-」東京都現代美術館(東京、2014)、「寺田コレクションの若手作家たち」東京オペラシティアートギャラリー(東京、2011)、「暗順応」ギャラリー東京ユマニテ(東京、2010)、「放課後の原っぱ—樫田伸也とその教え子たち—」愛知県美術館、名古屋市美術館(愛知、2009)、「キュレーター視点—〈点〉と〈網〉」埼玉県立近代美術館(埼玉、2005)、ギャラリーNWハウス(東京、1997)、水戸芸術館現代美術センタークリテリウム(茨城、1997)など。